

# NEWS

**JAAF**  
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース  
一般財団法人 広島陸上競技協会

第99号

R4.9.17発行

世界陸上初出場で  
日本新記録  
— 福部真子

# 広島から世界へ

オレゴン2022 第18回世界陸上競技選手権大会

走高跳で日本勢初の8位入賞  
— 真野友博



陸上人

# FILE0036

### 初出場ながら日本人史上初の8位入賞!

## 真野友博

走高跳

九電工

Tomohiro SHINNO

プロフィール | 真野 友博(しの・ともひろ)  
1996(平成8)年8月17日生まれ / 出身地: 広島市中区  
国泰寺中学校→山陽高校→福岡大学→九電工

主な戦績 | 2022(令和4)年 第18回世界陸上競技選手権大会(オレゴン・アメリカ) → 8位 / 2m27

自己最高記録 | 2020(令和2)年 第68回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会(熊谷・埼玉) → 優勝 / 2m31

### トップジャンパーへの一步を踏み出した。



初めて挑んだ世界選手権で、真野友博は日本の男子走り高跳びの歴史を塗り替えた。予選で2m28をクリアし、「世界選手権での日本勢最高記録」を2cm更新。決勝では2m27を1回目で跳び、「世界選手権の日本勢初入賞」となる8位入賞を果たした。本人いわく「高校の頃は県でひーひー言っていた選手」が、ひのき舞台で輝いた。

予選は大会第1日目にあり、

日本代表の先陣を切って登場。2m21と2m25の試技をそれぞれ2回目でクリアすると、続く2m28を1回目で成功して予選を通過した。迎えた決勝は2m19と2m24を2回目で、2m27を1回目でそれぞれ成功。2m30の試技は3回ともクリアできずと同じ記録で5人が並び、そのうち2m27を1回目で跳べなかった2選手を上回って8位に入賞した。

運命の導きのような歩みでここまで来た。広島山陽高時の全国高校総体は2年時が予選敗退で、3年時は11位。福岡大には「スポーツ推薦ではなく、一般の学生も受ける推薦入試で工学部を受験した」。数学と物理の筆記試験と面接を経て入学した地で才能が芽吹く。

指導を受けた片峯隆氏は元日本記録保持者で、幻のモスクワ五輪代表。「僕の跳躍スタイルと片峯先生の指導が

かみ合ったのかな」と腕の使い方や空中動作といった技術を伸ばした。高校で2m07だった自己ベストはぐんぐん伸びた。「大学時代はほとんど拍子でいきすぎて、自分でも怖いくらい」と笑う。

大学4年時は他の学生と同じように就職活動に取り組み、九電工から技術職で内定を得た。その後にあった西日本学生対校選手権で2m26の自己ベストをマークし、「最初はフルタイムで働いて趣味程度にやろうかなと思っていましたが、まだ専念したいと思うようになった」。

周囲のサポートで同社の陸上部に入部し、入社4年目のことし、世界の舞台に上がった。

「言葉にするのは難しいし、ありがちですが、踏み切れたときの浮遊感というか、ふわっと踏み切れるときは空中でふわっとなる。そういったところが競技の面白さかなと思う」と走高跳の魅力の口にする。今の自己ベストは2m31。今後は日本記録(2m35)の更新と2024年のパリでの活躍を視野に入れ、目の前のバーをふわりと跳び越えていく。

text by T

写真提供: 陸上競技マガジン



走高跳で2位になった韓国のウ・サンヒョク選手とともに

今回の世界陸上出場に際して多くの方々からのご声援まことにありがとうございました。世界陸上はとても楽しくあっという間に予選・決勝ともに終わりました。予選の段階から誰かが成功するたびに会場は大盛り上がりで、試合の雰囲気は最高でした。最初は緊張して思うような跳躍をすることができませんでした。試技が進むにつれてよい跳躍もすることができ、試合を楽しむことができました。決勝では2m30以上を跳んで入賞を決めたかったので2m27という結果には悔しい気持ちもありますが、8位入賞することができたのでよかったです。世界陸上を通して、世界のトップレベルでずっと戦い続けたいと思いました。また、今回の結果に満足せず、来以降も世界大会が続くので今回以上の結果や日本記録更新を目指して頑張っていきたいと思っております。今後も変わらぬご声援よろしくお願ひいたします。

九電工 真野友博



アメリカオレゴンで行われた世界陸上にて真野友博選手が、日本人初の8位入賞を果たした。まずはおめでとうございます。予選を6位で通過し決勝ラウンドへ。2m19・2m24は1回目を失敗。少し硬さがあると思ったが2回目にうまく修正。続く2m27を1回で成功、彼本来の跳躍ができた。続く2m30は入賞ラインの分かれ道、1回目2回目と非常に惜しい跳躍だったが失敗、3回目もクリアならず。世界大会で堂々と試合を運び、自分の跳躍を再現していた。真野選手との出会いは高校1年生の時、線も細くひよろつしているという印象。1年生の時はベスト記録を1m80まで伸ばしたが、まだまだ全国大会出場のおいひはできなかった。1年生の冬あたりから反発系のドリルなどがうまくなり、助走の内傾も出来るようになった。2年生の初めの試合で大雨の中いきなり1m90をジャンプし驚かされた。県総体で2位で通過し初の県外の試合、初の中国大会で不安があったが2m00をジャンプし、全国高校総体を決めた。3年時は全国高校総体では11位、国民体育大会では全国初入賞の4位、日本ジュニア室内で3位と大きく成長した。練習を休むことなくコツコツと積み上げた結果だと思ふ。高校では踏切位置の指示等はよく行ったが、細かな技術指導を行っていただけだったので、続けるなら走高跳の専門の先生がおられるところがいいと思っていた。大学進学にあたり真野選手は工学部を志望し、福岡大学へ入学した。大学生では走高跳の元日本記録保持者の片峯先生や松隈先生に出会い、2m26まで記録が伸びた。大学では2m15をジャンプする選手に育ってほしいと思っていたが、私の想像(他の人も)をはるかに超える、今では2m31へ。日本代表選手となり、これからは日本記録、またその先を見据え世界に大きく羽ばたいてほしい。

山陽高等学校 陸上競技部顧問 前田義行

オレゴン世界陸上マスコットキャラクターのビッグフットのレジェンドくん。

## 第18回世界陸上競技選手権大会 2022.7.15 FRI-24 SUN



# Hello, World. Meet Oregon.



写真提供: 陸上競技マガジン



「パリで決勝に行きたい」。その思いに確実に応えるため、どうサポートすべきか考え始めて一年。この結果は、その最初の登竜門をくり抜いた証である。長年の思いが日本記録という結果になった瞬間の笑顔は、多くの方々の胸に響いたはずだ。ここまでの一過程に携われて、光栄に思う。彼女の将来を見据え、長く温かくご指導下さってきた広島市の多くの先生方に、まず深く感謝申し上げたい。今大会では、記録の他に多く得るべきものがあった。世界で戦うために必要なものが整理され、それが確信に至るためには、世界一流の100mHを肌身で感じる事が必須だからだ。特に準決勝の経験は、更なるレベルに達するためにかけがえがない。今後も彼女の抜群の身体感覚を生かす道標であり続けられるよう、自己研鑽を重ねていく。

広島大学 大学院人間社会科学部研究科教育学部 助教 尾崎雄祐



沢山の応援ありがとうございました。目標としていた準決勝進出は果たせましたが、スッキリしない気持ちがある。ここに立つまで色々なことがありましたが、全てに意味があったと今なら思えます。私にとってテレビで見ていた憧れの世界陸上は「挑戦の舞台」でもあり「恩返し」の舞台でもありました。その舞台で日本記録を出せたこと、まずは嬉しく思います。それと同時に、世界の壁は高く全く通用しなかったことを悔しく思います。私がこうしてスタートラインに立っているのも、家族をはじめ沢山の皆さんに支えていただいているからです。応援して下さる方々に少しでも恩返しができるなら幸いです。世界新記録の出た素晴らしいレースで走れたことを糧に、更なる日本記録更新とパリ五輪でのファイナル進出を目指してこれからも世界に挑戦し続けていきます。

日本建設工業 福部真子

### 12秒82!! ずっと目指していたタイム。

1年前の今頃、ここまでの飛躍を予想できた人はほんの一握りだったに違いない。シーズン序盤に故障して日本選手権は準決勝で敗退。田島直人記念大会で優勝した際も、ミックスポーンで彼女を囲んだのは地元紙と地元テレビ局のみだった。そんな2021年を終えて迎えた2022年。女子100mHの福部真子は、米国オレゴン州で大きな足跡を残した。

世界選手権は初代表。「世代別の世界ジュニア選手権の代表になったのが10年前で、やっと本当の代表を勝ち取れてうれしい。楽しみたい気持ちが強い」「できれば12秒台を出して準決勝に進みたい」出国前にそ目

標を掲げて海を渡った。

日本時間7月24日午前3時48分に号砲が鳴った予選第5組。12秒96の4着でタイムで拾われて準決勝に進み、まずは一つ目の有言実行を果たす。日本時間7月25日午前9時10分スタートの準決勝第1組では選手紹介のカメラに笑顔で手を振り、レースでは8着でのゴールとなったものの、電光掲示板には「12秒82」の後ろに「NR」の文字。ナショナルレコード、つまり日本新記録を大舞台で樹立した。「必死に走って無我夢中だった。この舞台だったから記録も出せた」

長いトンネルを抜け、スポットライトの当たる

陸上人

# FILE0037

### 決勝進出は逃したが、日本新記録を樹立!

## 福部真子

100mH

日本建設工業

Mako FUKUBE

プロフィール | 福部 真子(ふくべまこ)  
1995(平成7)年10月28日生まれ / 出身地: 安芸郡府中町  
府中中学校→広島皆実高校→日本体育大学→日本建設工業

主な戦績 | 2022(令和4)年 第18回世界陸上競技選手権大会(オレゴン・アメリカ) → 12秒82 ※現在の日本記録

自己最高記録 | 2022(令和4)年 第18回世界陸上競技選手権大会(オレゴン・アメリカ) → 12秒82 ※現在の日本記録

場所に戻ってきた。広島・安芸府中時代から全国に名をせ、広島・皆実高に進むと100mHで全国高校総体3連覇して脚光を浴びた。明るい未来を誰も信じて疑わなかった。しかし、日体大進学後に思ったような結果が残せなかった。

転機は2021年シーズンから拠点を広島に戻したところだろう。昨年の田島記念で優勝した後はこう話していた。「ちょっとしたストレスを親と会うことでリフレッシュできている部分がある。本当に家族が大好きなので、家族の存在は大きいなとすごく感じる。楽しく前向きに陸上ができている」

2022年シーズンは4月の織田幹雄記念国際大会で日本人トップの2位に入ったのを手始めに、5月のセイコーゴールデングランプリでは3

年ぶりの自己ベスト更新となる13秒05をマーク。6月の日本選手権では初優勝し、返す刃で布勢スプリントで12秒93まで自己記録を更新した。そして世界で見せた快走。再び日本のトップハードラーとなった今、「さらなる日本記録の更新とパリ五輪の決勝に向けて頑張っていきたい」と決意する。

text by T



# 第19回 U20世界陸上競技選手権大会

WORLD ATHLETICS U20 CHAMPIONSHIPS CALI 2022

●開催日/2022年8月1日(月)～6日(土) ●会場/コロンビア・カリ

20歳未満の世界中のアスリートが集う「U20世界陸上競技選手権大会」が2022年8月1日(月)～6日(土)にカリ(コロンビア)で開催された。日本代表として広島にゆかりのある2名の学生が派遣された。広島県立西条農業高等学校出身の村上 碧海さん(日本体育大学)は女子やり投(600g)に、広島経済大学の東 秀太さんは男子800mへ出場した。初の国際大会の舞台で貴重な経験を積んだ2人の今後の活躍に期待したい。



やっと掴んだ世界ジュニアへの切符。思い描いていた投げはできなかった。しかし、この大会のおかげで、国際大会というものに肌で感じることができた。予選はトップ。決勝では10位。まずは、けがを治して、今よりも成長した姿を見せることができるよう頑張ります。

日本体育大学 村上碧海



800mに出場し自分の力のなさを実感していたが、1分50秒22予選敗退。いつも通りの調整が出来ない事、いつもと違う食生活と慣れない事ばかりで海外遠征の洗礼を受けた。この経験を活かし今年の日本インカレでは入賞を、そして、ゆくゆくは日本インカレ優勝や日本選手権優勝を目指し、頑張ります。

広島経済大学 東 秀太

## 日清食品カップ THE 38TH NISSIN CUP ELEMENTARY SCHOOL ATHLETICS FESTIVAL 第38回 全国小学生陸上競技交流大会

●開催日/2022年8月20日(土) ●会場/日産スタジアム(横浜市)



第38回「日清食品」全国小学生陸上競技交流大会が8月20日(土)に日産スタジアムで開催され、男女11種目14名が出場した。コンバインド種目では、優勝も含めて4種目すべて入賞、個人の記録としても11種目のうち6種目で自己ベストという素晴らしい結果であった。陸上競技は、他の競技と比べて、専門化が最も遅いとされる競技の一つである。コンバインド種目でのこのような結果を出すことができたのは、各指導者の皆様が陸上競技の特性を理解し、今後の伸び代を大切にされた育成を心掛けてくれた結果と言える。

指導・普及委員長 石川和明

種目	名前	所属	予選記録	決勝記録	順位	コメント
5年男子100m	大繁力丸(5)	東広島TFC	14.24 +0.7		34位	
6年男子100m	坂本勇太(6)	福山ジュニア	12.81 -0.4	C決勝 12.90	0.0	19位 ベスト記録更新
5年女子100m	中澤心葉(5)	東広島TFC	14.18 -0.3	C決勝 14.20	+0.2	17位
6年女子100m	辰本心珠(6)	竹尋アスリートクラブ	14.03 +0.7		29位	

  

種目	名前	所属	予選記録	得点	決勝記録	順位	コメント
男子 コンバインドA 走高跳	岩森達(6)	CHASKI	12.34 +0.2	1233点	2325点	5位	ベスト記録更新
男子 コンバインドB 走り高跳	筑後蒼人(6)	竹尋アスリートクラブ	5m12 +0.4	1207点	2393点 (大会新記録)	1位	ベスト記録更新
女子 コンバインドA 走高跳	江原杏月芭(6)	竹尋アスリートクラブ	12.57 -0.7	1186点	1193点	2位	ベスト記録更新
女子 コンバインドB 走り高跳	秦愛月(6)	竹尋アスリートクラブ	4m42 +0.0	976点	1011点	6位	

  

種目	名前	所属	予選記録	決勝記録	順位	コメント
混合4×100mR	嶋田亮大(6) 浪速彪翔(6) 濱中穂乃花(6) 朝山更来(6)	広島JrOC	53.51	C決勝 53.75	20位	ベスト記録更新
女子友好100m	池久保里笑(6)	広島JrOC		15.16	+1.5	
男子友好100m	米廣柊二(6)	広島JrOC			DNS	

## 第49回 ALL-JAPAN JUNIOR HIGH SCHOOL TRACK AND FIELD CHAMPIONSHIP 2022 全日本中学校陸上競技選手権大会

●会期/2022年8月18日(木)～21日(日) ●会場/とうほう・みんなのスタジアム(福島市)

今年度の全中は、福島市のとうほう・みんなのスタジアムにて開催された。広島県選手団は、男女合わせ38名の選手が出場し、それぞれ健闘した。女子200mで松本真奈さん(古田)が7位入賞。1年生ながら女子100mで全中出場を決めた三好美羽さん(神辺西)は、全体で9位となりB決勝となったが12秒28の好タイムで駆け抜け、今後もさらなる活躍が期待される。加えて、神辺西中は、男女アベックでのリレー全中出場を果たした。また年々競技レベルが上がる中、男子3000mでは、末田君(高屋)・土間君(千代田)・新見君(松賀)の3人が決勝に残り、今大会でそれぞれ自己ベストを出す力走を見せた。

中体連 陸上競技専門委員長 竹川雄一



## 令和4年 躍動の青い力 四国総体 2022 全国高等学校総合体育大会

●会期/2022年7月23日(土)～8月23日(火)  
●会場/鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム(徳島県)

今年のインターハイは8月3日(水)から7日(日)に徳島県鳴門市で行われ、広島県からは18校82名が出場した。気温が高く、風が強く不安定なコンディションの中、広島県勢は5種目で入賞した。

高体連駅伝委員長 野崎秀和



男子棒高跳	4位	4m85	伊藤大輔	近大東広島(2年)
男子走高跳	2位	7m35 (-0.3)	児玉成輝	沼田(3年)
男子ハンマー投	6位	59m14	尾濱太陽	西条農(2年)
女子100mH	6位	14'04 (-1.5)	森脇叶美	神辺旭(3年)
女子400mH	7位	1'00'89	森脇叶美	神辺旭(3年)

## 理事就任のご挨拶

株式会社エディオン 木村文子

この度、広島陸上競技協会の理事を務めることになりました。大変嬉しく思うとともに、身の引き締まる思いがいたします。小学校で陸上をはじめから、広島県の陸上界には大変お世話になりました。おかげでオリンピックに出場できる選手にまで成長させていただきました。これからは、広島県の陸上界を盛り上げていけるよう尽力してまいります。子どもから大人まで、陸上競技を楽しんでもらえる環境作りを考えていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 青少年の夢を応援します!

### 青少年健全育成協力企業

- 中国電力株式会社
- 株式会社大創産業
- 株式会社ツルハグループ
- ドラッグ&ファーマシー西日本

- 広島駅弁当株式会社
- 広島管公学生服株式会社
- 株式会社中電工
- アシックスジャパン株式会社
- 株式会社合人社グループ
- 株式会社ひろぎんホールディングス
- JR西日本プロパティーズ株式会社
- 広島ダイヤモンドホテル

- 株式会社もみじ銀行
- 株式会社リヴボックス
- 株式会社いとや
- 株式会社ウイズアート
- 株式会社コマップス
- 株式会社体育社
- 株式会社ニシ・スポーツ
- 株式会社BTM

- 広島ガス株式会社
- 広島経済大学
- 広島文化学園
- COCOKALAグループ
- T&TWAMサポート株式会社
- 株式会社安芸舞祭
- 株式会社エディオン

### 特別協力企業

- ミズノ株式会社
- 株式会社キリンビバックス

(順不同)